

# 第8回離島がんフォーラム in 宮古 報告

(2020年7月4日)

場所・・・宮古島市中央公民館

一般社団法人 沖縄県がん患者会連合会

## 講師

- ☆ 当事者の立場から サバイバーナースの会「ぴあナース」 西垣みゆき氏  
『命どう宝』というけれど ～あなたならどうしますか～
- ☆ 教育者の立場から 琉大教育学研究科 教職員大学准教授 村末勇介氏  
『命の「土台」を豊かに育む』 ～がんを学ぶ、がんに学ぶ子どもたち～

## ○アンケート感想より

- セカンドオピニオンで病院を紹介された後、主治医との関係が悪くなった。
- まだまだ試練！！だと強く感じました。有難うございました。
- 西垣さんの講話に感心しました。自身の体験を話して下さいて有難うございます。  
生きるという事の大切さを大事にしていきたいと思いました。
- ※ 予想以上にコロナ災禍への反響が大きく、参加者（特に患者会の参加）は従来のフォーラムの中で最も少なく、アンケートの回収も厳しい状況だった。

○参加者は少なかったが地元両紙の記者が講演全ての取材を下さり、講演内容を大きく取り上げて頂いた。

○今回も沖縄県身体将棋者協会のご協力を得る事ができ、会場設営等、お力添え頂きました。



## 📍 フォーラム案内・会場の様子



# 金銭的問題で治療断念も

## 離島がんフォーラム 離島医療の現状訴える



第8回離島がんフォーラム（主催・県がん患者会連合会など）が4日、市中央公民館で行われた。フォーラムではサバイバーナースの会「びあナース」の西垣みゆきさん、琉球大学大学院教育学研究科の村末勇介准教授がそれぞれ講演を行った。

乳がん治療を始めて3年になる西垣さんは、患者の（左から）西垣さん、村末准教授、市中央公民館

立場から離島医療の現状を訴えた。石垣島在住の西垣さんによると、医療設備が充実していない離島在住者ががんになった場合、検査や入院で本島の病院に頻繁に足を運ばなければならず、金銭的問題から治療継続を断念する人も多いという。西垣さんは「命どう宝と言うが、大切な命もお金がないと守れない」と述べた。

西垣さんががんになって生活面以外で大変だったことは、無意識的に向けられる差別的な言葉だという。「周りにかわいそうと思っ てほしいわけではないが、『大丈夫』と声を掛けてもらえるだけで前を向ける」と話した。

村末准教授は今年から全国の小中高校で「がん教育」が段階的に始まることに触れ、「日本人の2人に1人ががんになる時代。がん教育が浸透すればがんのイメージも変わってくる。学力の前に命の大切さを考えさせる時間を作ることが大事」と強調した。

また全国各地でがんの啓発活動は盛んに行われてい

沖縄県友声会の田名勉会長は開会あいさつで「人は往々にして倒れている人の痛みを忘れてしまうことがある。相手の痛みに共感し、ともに生きる心を持ってほしい」と述べた。

離島がんフォーラム

# 患者や家族どう支える

## 当事者、教育者立場で提言

「支えあう大切なあなたと家族、地域で紡ぐぬちぐすい」と題した第8回離島がんフォーラム(主催・県がん患者会連合会)が4

日、市未来創造センター多目的ホールで開かれ、当事者や教育者の立場で、離島の患者や家族をどう支えていくのか、体験談やがん教

乳がんが見つかり、専門医の常駐がない石垣島ではなく、沖縄本島の治療を遠く、左乳房部分切除手術を受け、1カ月半の入院生活と放射線治療を体験した。治療費、入院費、渡航費など離島のがん患者の負担の重さを説明し、「命と、実ぬちどつたから」という言葉があるが、この大切な命もお金がなければ守れない」と話した。金銭的問題で離島からのがん患者は5年間に迫り込まれた離島の患者としての闘病記を話した。また、がんの啓発活動

石垣市在住の当事者で看護師でもあるサバイバーナースの会「ひあナース」の西垣みゆきさんは、乳がんになり沖縄本島での治療で金銭的、精神的、肉体的に追い込まれた離島の患者としての闘病記を話した。西垣さんは「16年に



がん闘病記を話す西垣みゆきさん＝4日、未来創造センター



村末勇介准教授

# あすから郵送申請可

## 市コロナ 観光事業者に10万円

観光関連事業者に一律10万円を給付する市の「事業者支援助成金交付事業」の郵送申請が6日から可能になる。表裏的な給付作業は受付期間の13日から着手するが、事前に郵送申請を受

観光関連事業者に一律10万円を給付する市の「事業者支援助成金交付事業」の郵送申請が6日から可能になる。表裏的な給付作業は受付期間の13日から着手するが、事前に郵送申請を受



4. 死を見つめ、「生きること」を問う大学生～がん患者会連合会のみなさんの「いのち」の授業